



朝鮮の小児のお正月
朝鮮の正月は、小児の正月といふ。...

常陸丸を捜索して

筑前丸を捜索して

洋上の怪行衛遂に不明
筑前丸は、一月二十七日、神戸に到着した。...

飛行機に魂消した黒人

大西飛行中尉談

大西飛行中尉は、飛行機に魂消した黒人を、大西飛行中尉に話を聞いた。...

群衆警官と衝突す

長谷川長官、十七名検束さる

長谷川長官は、群衆と衝突し、十七名が検束された。...

三十年以前京城は

〇旧都から見た京城

三十年以前の京城は、旧都から見た京城。...



讀者文藝の部
讀者文藝の部は、讀者の文藝作品を掲載する。...

元旦と紀元節を同じ日

〇今年に好む嫁を貰った相対

元旦と紀元節を同じ日。今年に好む嫁を貰った相対。...

大明日の晩に

〇大明日の晩に

大明日の晩に。大明日の晩に。...

今年君は

〇今年君は

今年君は。今年君は。...

春の気分が

〇春の気分が

春の気分が。春の気分が。...

東京米市電	大阪米市電	兵庫米市電	大坂米市電
米市電	米市電	米市電	米市電
米市電	米市電	米市電	米市電
米市電	米市電	米市電	米市電
米市電	米市電	米市電	米市電

仁川米市電	仁川米市電	仁川米市電	仁川米市電
仁川米市電	仁川米市電	仁川米市電	仁川米市電
仁川米市電	仁川米市電	仁川米市電	仁川米市電
仁川米市電	仁川米市電	仁川米市電	仁川米市電
仁川米市電	仁川米市電	仁川米市電	仁川米市電

仁川米市電	仁川米市電	仁川米市電	仁川米市電
仁川米市電	仁川米市電	仁川米市電	仁川米市電
仁川米市電	仁川米市電	仁川米市電	仁川米市電
仁川米市電	仁川米市電	仁川米市電	仁川米市電
仁川米市電	仁川米市電	仁川米市電	仁川米市電

平一
 均二
 值三
 目四
 節節節節
 十十十十
 四四四四
 七十七七
 十三十三
 錢錢錢錢
 中島治郎 佐賀貞次 上野造哉 大川孝二
 井坊四郎 大野孝太郎 上田四郎 橋本仲一
 國徳太郎 吉田九助 須谷善吉 小寺三三 片
 之梅 藤原三郎 中森彌太郎 坂田安
 西村一郎 岡田良一 堀江三郎 三浦

二、小倉三木新本平治町武藏屋中四郎
市石村木田久一上野屋手小倉三
小倉三木田久一上野屋手小倉三
外人及名寄藤井貞三上佐代登山畑助吉
三人(六十名)

五、太田藤兵衛大藏主藤原友富一船主
村松茂隆藤原友富北本つ上宮川茂喜
大伴英俊久知不持三條三
二人(共八十四名)
三條八十八(十四名)

一月間、
 下旬付にけたものと
 續め、
 併送せ、
 十四日、
 十五日、
 十六日、
 十七日、
 十八日、
 見送るに、は五十錢を料金を定す
 但何書何宛と明記に限る、宛名は
 京坂日華編輯局、は名文録係

[illegible]

◆海中で石油を拾った大人もある◆

い高質なのであらうが夏になつて金裸體の大供が舞臺演なその波打橋に集り海水浴の小供が砂鏝でも弄つて居る様に至極豐饒な顔をして打寄せる石炭の粉を掬ひつてゐるのを受けるにへ行くと悲慘である又濟南に送つては驚くゝ國が高いので牛皮

乾して置くのを經民の小供達が目を付け炭を裏返す時になると手に手に炭を垂けて來て處から溢れるのを砂と一所に掘集めて我國に掠へ出す如何に強民でも國の安いが國の直民がべラ格に高いから此んな國でも馬鹿に出来ない譯だら

でもあるが牛や豚の脂肪も獲さ食べて仕舞う支那人の事だから當人は反つて

◇ソツツが出 へ好いとふかも知れぬ石炭拾ひだつて其手間も間を算盤玉に置かぬ荷は一向何とも思はず資本要らず金儲け位に心得て居るのであら路上の馬糞拾ひや人糞拾ひでさ高質になると云ふから毎昨冬小の蠟火事で石油を海中へ捨てたのがあつて其中に海水は結氷して石油は凍らずの金儲けに溺つて居るの此は何より金儲けも大變支那人が氷上を走り歩いて結氷

拾ひもつて了つたと云ふ

10. **10.10.10**

倒産なりとす
 國幣發賣長 春間に日々二百車を
 發送し一往復に六日間を要するこ
 するも千二百車あれば支障なく運
 轉せしむる事を得又哈爾濱發賣浦
 行き貨車も同様日々二百車發送し
 一往復は十一日間なれば之れ亦二
 千四百車あれば足り 東南綽線を合
 計三千六百車の貨車にて毎日四百
 車宛兩端に發送する事に得三千六
 百車は東支の所有する車中幾類のみに
 割き得る餘配八千六百車に比し二
 分の一にも足らざる數なりとす而
 して東支の二百車即ち滿鐵の百車
 は現在の滿鐵貨車發送數にては到
 底引受けを了る能はず自然堆貨の
 山積を見るに至るは已むを得ざる
 次第なりとす

問島材界不況

如上の原因錯綜し壓熾の極招
 すべからざる状態にあれば那滿
 るもの繁栄一番を要すべしと

官地競賣制定

關東都府府は八日府令を以て關
 州内に於ける官有地競賣に關す
 規則を制定布告したり本令に據
 は官有地競賣は凡て入札の法に
 合致しに付せんとす土地あるに
 ては都府府は七日以前以て
 土地の所在、地目、地番地價及
 競賣場所及び其の日時、契約書
 を示す場所及び土地代金分納を
 可する時は其の方法並に競賣を
 當する官吏の氏名を府報にて公
 する事となつて居る入札は郵便
 依りて之を爲す事を得等其他
 土地競賣に關する規定十八條

興業

支那商は此故が大難關
今次開島協定の支那商臨斷者號が
端なくも破産の悲境に會したるは
例え支那財界の逼迫危急を語るも
のにして實に駭陸奔蹙のみならず
肩子街支那商の三四は畜産者の難
關を控へ此難を踏むものなきにあら
ずと觀測せられ金融の逼迫は意
外の速に醜狀を暴露するに至るや
も知るべからず是れが原因は實貨
アルプルの暴落當用相繼に手を染
めたる支那商悉く思惑外れて甚大
なる痛手を被む此被害は約四十
萬圓より百六十萬圓の間にありと
云ふ見當にあるが是れ開島支那財
界に取つては容易ならざる打撃致
す

支那の大豆の出價
昨今の大豆の出價は
昨年の大豆の横内在荷五萬一
噸以上を達し一日の託送到着車
七八十貨車、發送六七十貨車に
與地より支那財界にて購及び
原支那國の開港港に運送せ
るもの約九百車内外一車二噸
として一千八百噸なり而して購
入は一十一萬圓内外出入總額は
昨年に比して多量にして構内倉庫
共大豆を以て充たされつゝあり

開原驛現況
昨今の大豆の出價は
昨年の大豆の横内在荷五萬一
噸以上を達し一日の託送到着車
七八十貨車、發送六七十貨車に
與地より支那財界にて購及び
原支那國の開港港に運送せ
るもの約九百車内外一車二噸
として一千八百噸なり而して購
入は一十一萬圓内外出入總額は
昨年に比して多量にして構内倉庫
共大豆を以て充たされつゝあり

救濟絶望か

女

を告げ金融頓も急迫を厭ふは皆
之れに原由せざるなし秋秋逐屋
街に於ける有力なる紳商、麻植
等の倒産したる致命傷も是れに
し今大關隆實統の破産も、胡れば
此打撃より來りたるものに當時
關隆實統の損害は四萬圓を降らざ
し此要するに本年關隆實統が
邦商側の損害打撃大にして是れ
救済は一兩市場の調節を謀るこ
と意味より有力者其間に起ちて
旋走する所ありしも是迄の消
ゆによれば支那側の保護は意外
冷め淡々たる態度を保持し同統
殺を以て止むを得ざる運命と見
し只其成行に放任し衷心より憐

入頭多く一箇月二箇名を下

本年四月入學セシムベキ第一學年
生徒約五十名ヲ募集ス諸細ハ一覽年
二十五日以降ノ朝鮮總督府官報又
ハ本分教室ニ就キ承合ヘシベジ

大正七年二月

京中學校城

大田分教室

看護婦募集

規則書御申越次送達ス
京城より當地旅費支給サ
大連市西公園町三六電話三〇八

遼東看護婦會

古著古洋服 諸物價廉貴
價に買入可申候間多少に不拘電話
又はハガキにて御取次第早速御同
致可帳向實札質交換等も仕候
京城本町二丁目

あはじや

江頭衣三店

支店 電話九一七番
本店 電話九一七番

成金の秘訣と
生活難の救済

資金萬能の新時代、大小各種成
金の餘裕を得たり、生活難の宮現を全し
垣根を得て以て人生の眞生説

佐野義三に告ぐ
急談ある居所知らむ

大阪天王寺 寺 西

廣興肥料造林請負

山林用材樹種

園藝植物類

果樹苗不

農用種子

苗代院

表

農園

は滿洲の某官憲は北京政府に

東京市本所
郵便局前
上田總本店

實験用大
本機は事
業上有利
な製自在
也

進皇製織機
稻穀製粉
カミカミ
織機

東日本所長崎町三日本發明獎勵會

●致富の果、速星

大阪最著名設計所特許人

今延商店

特許無受
電話
北三
四四
六八
七九
八〇
番

多博株式會社
債權定期物現問屋
多博株式會社
債權定期物現問屋

伊田太朗商

町下多博市岡福
電話二五七二番一〇八

倉庫完全
各債券買入
杉本質店
以坡樓并
加花園門
電話三〇三番

司馬文園之系と立ちて

李王 職御用
 模範牛乳
 ニウソ
 石粉 洗粉
 太正 塚本 廣田 主計
 目丁 四町 榮達 城京
 場牧 亞東
 路二 五 統 電
 信券 貯蓄 勸業
 高價即金買入
 相場表は申越次第進早
 釜山草梁第三區
 岩井商店
 電話壹貳六番

誰でも實業
獎勵資金壹千圓進呈

大正七年二月

謹告

小生

御當地勤務中は公私共多大の御眷顧を蒙り奉感銘候今回本社に轉勤を被命候に付ては日々拜趨御告別可仕の處昨多來肩書の地に養病中にて其意を得ず候段不惡御諒承被下度不敢以紙上御挨拶申述候

兵庫縣武庫郡屋土井芳雄

一、限特約東京本店並寄店五組金太郎氏に於て、
二、限東京市東區北濱一丁目十番地大阪株式取引所仲買人丁目十番地

御軍陸

元

人蔘エキス

満天下の賞讃を博したる人蔘エキス

定内
用

△七十分、金五十銭、△四十分、金壹圓、△三十分、金壹圓
△四十七分、金壹圓、△八十五分、金五圓、△百十分、金壹圓

●實業案内御申越次第送呈可仕候
大阪米穀取引所仲買人
大阪市北區堂島濱通二丁目九十九番地

小林彦二郎商店
電話北一四〇二、一四〇三番
支店札幌、エムエムは「カネコ」

定現物
電話本局二〇九四二、〇九五五、發信費等、エムエムは「カネコ」
自宅電話南 二五七一番

[illegible]

公債株式現物問屋
東京市日本橋區坂本町一丁目
第一番地（前所）
浪花（市場用）
電話 四八番四〇 九番五〇三番 六八九番
二五〇番
電話 四八番四〇 九番五〇三番 六八九番
二五〇番
電話 四八番四〇 九番五〇三番 六八九番
二五〇番

仁線 (仁川行) 京元線 (北行) 同 (南)

住宅問題

氣候と調和した設備を施せ

邸下の如きは疊を敷き開閉の部分で敷き他を壁にす
總督府某技師談

船長以下を

ありて火を放つ
船長以下をありて火を放つ

朝鮮は南嶺山

から北中江鎮
北中江鎮から北中江鎮

張勳密かに宣統帝に調子

張勳密かに宣統帝に調子

土地の氣候と

土地の氣候と

張勳密かに宣統帝に調子

張勳密かに宣統帝に調子

土地の氣候と

土地の氣候と

張勳密かに宣統帝に調子

張勳密かに宣統帝に調子

土地の氣候と

土地の氣候と

張勳密かに宣統帝に調子

張勳密かに宣統帝に調子

土地の氣候と

土地の氣候と

張勳密かに宣統帝に調子

張勳密かに宣統帝に調子

土地の氣候と

土地の氣候と

張勳密かに宣統帝に調子

張勳密かに宣統帝に調子

私立梨花學堂

私立梨花學堂

士官學校生

士官學校生

溫突二間を焼く

溫突二間を焼く

晝夜通水の

晝夜通水の

晝夜通水の

晝夜通水の

晝夜通水の

晝夜通水の

晝夜通水の

晝夜通水の

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

大虎を

第百四十九回 大坂霞の家主

殘
月
(六)

「櫛中には短刀を藏めて居る、然しそれは生別れた母の記念であるこの短刀で髪を絶てば、母が手づから絶ち切つて下されたものと同じである」

桐島は、まづ拜殿の廊に平伏して、眺望の大廳をくゞゝ述べる風が一無り吹くことに、指の露がばら／＼落ちて、冷かに今切らうとする髪の上へ落ちる

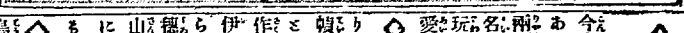
「わたくしの髪を供へます、どうぞ石村殿の病氣をお治し下さいまし、お願ひでございます／＼」

桐島は、もし見容められてもは取り返し付かぬ耻辱を見えなれと思つて身を硬く平伏たまゝして居た、利右衛門は早くも

「彼に誰か居るやうぢや、何でござらう」と云つた

桐島は生きた空もなかつた、造けるにも道が無い、さうとせせば、他の人の詮議に會うのは面を失ふ所である

「聖賢大明神様、どうぞ此の危い



◇近世畫と錦繪

毛皮なめし仕立
 皇朝製調進羽袢褸國製縫絨
 堀川廣瀬兩氏の入札
 春は諸大家の藏庫も開かるゝ噂
 中早くも十、十一日を下見に
 國美術俱樂部で開會するは近世
 新製本
 鳥毛皮
 鳥毛皮
 貿易商
 樽元商行
 京都府下二丁四九番地

家の遺墨を多藏する堀川氏及び
具錦繪の趣味者たる廣瀨氏の對
品である

彼と云つて直しに來ないのみなら
す水道の柱にある番號を云つてや
つても違ふ／＼の一點張で取り合

古畫も漢畫も少しはあ
 はす今に故障のまゝにある水が出
 一休、清嚴等の墨蹟も小品の妙
 ねば邪魔で仕障がないから何うし
 ても直して呉れねば打ち毀すから

其の考で居て貰ひたい（横柄無能
生）△この頃のやうに火事が頻發
する時には手鎖を打つて貰ひたい

半鐘が鳴らぬため隣りの出火さへ知らずに居ることがあります。是

水の三幅帯に至るまで泉源の縁も佳いのが多い併し水際立つたのは南畝畑の諸幅で中にも

します(老娶心生)

新刊紹介 (到老風)

▲秋暉の双幅 孔雀と雲龍
 の圖は左右の配合最も調子よく
 雅で勝つた玉州の眞山飛龍と呼
 ぶ
 ▲中央佛敎二の二 二千餘年日本
 三の二同書新稿
 ▲桐花集會々報會員に頒布 東京麹町
 町堀平河町五の三六落陽堂
 ▲雜書及び附録四の二 二十五條東京

文晁の山水は數多く米
 人の山茶花奇石は濟ましたもの
 平世會には著直の宣稱し下
 既濱町二の一四其社
 ▲水産界四二五二十五隣東夏赤坂南浦
 町大日本水産會
 ▲婦人週報四の五 四隣五順東京牛込
 子月四の一七女上

碁戰 十番碁第六局(一) 三役 山平 壽氏
二子 大久保 雅彦氏

二の十五
五の五
六の六
二の十七
二ハロイ

九七六五
 八七六五
 七六五
 六五
 五
 四
 三
 二
 一

一〇 への六
 二 本の六
 三 本の六
 四 本の六
 五 本の六
 六 本の六
 七 本の六
 八 本の六
 九 本の六
 一〇 本の六
 一一 本の六
 一二 本の六
 一三 本の六
 一四 本の六
 一五 本の六
 一六 本の六
 一七 本の六
 一八 本の六
 一九 本の六
 二〇 本の六
 二一 本の六
 二二 本の六
 二三 本の六
 二四 本の六
 二五 本の六
 二六 本の六
 二七 本の六
 二八 本の六
 二九 本の六
 三〇 本の六
 三一 本の六
 三二 本の六
 三三 本の六
 三四 本の六
 三五 本の六
 三六 本の六
 三七 本の六
 三八 本の六
 三九 本の六
 四〇 本の六
 四一 本の六
 四二 本の六
 四三 本の六
 四四 本の六
 四五 本の六
 四六 本の六
 四七 本の六
 四八 本の六
 四九 本の六
 五〇 本の六
 五一 本の六
 五二 本の六
 五三 本の六
 五四 本の六
 五五 本の六
 五六 本の六
 五七 本の六
 五八 本の六
 五九 本の六
 六〇 本の六
 六一 本の六
 六二 本の六
 六三 本の六
 六四 本の六
 六五 本の六
 六六 本の六
 六七 本の六
 六八 本の六
 六九 本の六
 七〇 本の六
 七一 本の六
 七二 本の六
 七三 本の六
 七四 本の六
 七五 本の六
 七六 本の六
 七七 本の六
 七八 本の六
 七九 本の六
 八〇 本の六
 八一 本の六
 八二 本の六
 八三 本の六
 八四 本の六
 八五 本の六
 八六 本の六
 八七 本の六
 八八 本の六
 八九 本の六
 九〇 本の六
 九一 本の六
 九二 本の六
 九三 本の六
 九四 本の六
 九五 本の六
 九六 本の六
 九七 本の六
 九八 本の六
 九九 本の六
 一〇〇 本の六

四	トの十八	カ
一五	トの十八	カ
一六	ハの十八	ロ
一七	ハの十六	ロ
一八	ハの十七	シ

一九〇二の十一
一五の十一
ツソ

一六八〇
二二七〇
△十二日午後
大阪前止安場寄寓を受け先二十一
四七十四錢を押し五貫高に寄付し
△先
四七十四錢

子葉養滋用應泉鏞

サイダーホホ



スワン 萬年ペン

到る所の文具店に目下
 争販に買上人の應々時
 景最販賣店に乞御用命
 目録に代進呈
 十阪東區平野町二丁目
 スワン大阪出生



發賣元
松下大善
四郎店

通の電報

[illegible]

汽船出帆廣告					
神戶大正川運航					
大信丸 二月十六日 午後五時出帆					
須磨丸 二月廿三日 午後二時出帆					
木浦丸 三月五日 午後二時出帆					
安東丸 二月十五日 午後二時出帆					
大通行 二月二十二日 午前十一時半出帆					
元山出帆					
西洲丸 二月十二日 午後九時出帆					
安山丸 二月十九日 午後九時出帆					
安平丸 二月十九日 午後九時出帆					
上海丸 二月十八日 午後四時出帆					
內陸各港出帆表略略					
南米北洋水行					
正月十四日					
每兩月一回					

一番効力の

確^た定^しに
か
お
歯^は磨^{みが}は
ウ^うラ^らフ^ふ洗^{せん}粉^ふ
本店^{ほんてん}謹^{きん}製^{せい}の

クラブ
歯磨

最新最良の **ウツロ** 齒磨は英國技師
鐵匠の下に特製せらるゝもので齒こ
口中の衛生に他類のない有効な原
料を用ひ防腐、消炎、殺菌の力に富
める貴重な藥品を配合し普通の齒磨
に比較するに五倍以上の効果がある
上に使つた後で非常に爽快を感じま
すから醫學者間でも理想の齒磨とし
て推奨されて居ります

[illegible][illegible][illegible]